

【ご案内】

「家庭科の授業を語る会（第205回）」の開催

残暑の厳しい毎日ですが、朝夕は少し過ごしやすくなってきました。いかがお過ごしでしょうか。宮崎県の教員採用試験も終わり、4年生は卒業論文に本格的に取り組んでいます。そこで、第205回の「家庭科の授業を語る会」では、その4年生の甲斐さんと御手洗さんに卒論の中間発表を行っていただきます。多くの先輩や先生方に叱咤激励いただけると有り難いです。今回も、対面とオンラインのハイブリッド開催ですので、遠方の皆さんもオンラインでお気軽にご参加下さい。

- 日 時 : 2025年9月20日(定例の第3土曜日) 午後2時から午後4時
- 場 所 : 宮崎大学教育学部 技術・家庭科棟 T211教室
Zoomでのご参加は、下記のアドレスに接続下さい↓
<https://us02web.zoom.us/j/82555748274?pwd=PGhkoWy4Nff2eigG9GYazWimO5rYa5.1>
○ミーティング ID: 825 5574 8274 ○パスコード: 1Bbg6u
- 話 題 : 小学校家庭科における協働学習の在り方
小学校における絵本を活用した家族学習
- 話題提供者: 甲斐彩香, 御手洗明音（宮崎大学教育学部4年生）

「家庭科の授業を語る会（第204回）」（2025年7月19日）の報告

○話 題 : 小学校・消費生活領域における課題設定

○話題提供者: 吉田 舞（都城市立南小学校）

第204回家庭科の授業を語る会では、吉田舞先生に、小学校において子どもたちの身近な生活から始め、消費生活を捉えていく実践を紹介していただきました。

吉田先生から紹介していただいた実践では、子どもたちがより自分事として受けとり、考えられるようにするための工夫が数多くされていました。その中でも特に印象に残っているのは全6時間の題材中の最初の導入で、自分のランドセルのことを振り返ることから始まったところ。自分のランドセルに対し、「1年生の時の扱い方と今現在の扱い方とではどのように変化しているのか」という発問が子どもたちになされたのですが、私もその発問にハッとしました。そのような問いかけをおこなった上で、自分自身のものの使い方を振り返らせていました。家庭科教員として教科書の内容を教えることを目的とした場合には、教科書の内容を押さえるだけの努力をすれば良いはず。しかしこの実践では、子どもたちが巣立った後にも生きていく学びが提供されていると感じました。

自分の身近なことから導入し、子どもたちのこれからに繋げていく学びへと、“学びに誘うこと”の重要性を再確認できたと共に、これから臨む教育実習Ⅱでも積極的にこの姿勢で向かいたいと思うことができました。ありがとうございました。

（文責：稲生）

連絡先：家庭科の授業を語る会（事務局）

〒889-2129 宮崎市学園木花台西1-1 宮崎大学家政教育講座内

伊波 富久美（大学院教育学研究科）：Tel/Fax 0985-58-7539（直通）

：メールアドレス e09101u@cc.miyazaki-u.ac.jp

●「家庭科の授業を語る会」のホームページ：<https://cms.miyazaki-c.ed.jp/ssc074/htdocs/>